

やお・かしわら

やおべつじん だいしんじ
八尾別院 大信寺

大信寺は、浄土真宗大谷派(本山は東本願寺)の別院で、別名八尾御坊とも呼ばれる。起源と歴史は、慶長12年(1607)本願寺の東西分裂に端を発し、久宝寺寺内町を支配していた安井氏に対抗し、森本行誓や17人の民衆が、当時荒地だった大和川右岸(現在の八尾市中心部)に教如上人と共に大信寺を建立し、寺内町を形成した。以後、八尾周辺は大信寺と寺内町を中心に発展していく。最盛期には、大信寺の境内地の規模は四町四方(約440メートル四方)にもおよび、大信寺直轄の門徒は300戸あったとされ、河内地方における教化の拠点として重要な役割を果たしていた。大信寺の本堂は、天明8年(1788)京都の大火災(天明焼)によって東本願寺が消失したため、本山の御影堂として移建され、約10年間、東本願寺の御影堂の役を勤め、



RC造で再建された本堂



RC造で再建された山門



町中の梅林

所在地：八尾市本町 4-2-48
最寄駅：近鉄大阪線八尾駅から南西に徒歩約 10 分
見学：境内は自由
TEL：072-922-2724

再度、寛政11年(1799)大信寺に移建され再建されている。明治5年(1872)、東本願寺の別格別院となり、別院大信寺と称するようになった。昭和28年(1953)3月2日の屋下がり、巨大な本堂は白蟻の被害によって屋根全体が轟音とともに倒壊している。現在の本堂と山門は、昭和42年(1967)に落成した鉄筋コンクリート造のモダン建築である。大信寺は、戦争の被害を受けなかったため、教如上人筆の「十字名号」「光明本尊」をはじめ九十二件の法宝物が境内の宝物収蔵庫に所蔵されている。

毎月 11 日と 27 日、大信寺一帯で開催される露天市「お逮夜市(おたいやいち)」は、昔の面影を今に残している。また、境内には、町中ではめずらしい「梅林」があり梅の季節には、かぐわしい香りが辺り一面に漂う。(新田俊明)